

平成29年度 北海道小学校長会  
第4回理事研修会  
北海道へき地・複式教育連盟の  
活動や要望について  
2017. 12. 18



今年度の本連盟の活動の様子と現状についてお話しさせていただく。

まず、毎年開催されている全道の研究大会とそのプレ大会についてである。今年度は9月21・22日に、釧路大会を開催した。初日は釧路町公民館で全体会と分散会を、22日は7町村8会場で公開研究授業及び研究討議を行った。また、よく週の29日には、後志プレ大会が8町村8会場で行われた。

釧路大会は総勢550名の参加者があり、各会場とも多くの参加者が訪れる中、授業が行われ、充実した内容であった。また、今回は3校が集まった集合学習の授業公開も行われた。

後志大会でも、各学校で積み上げられてきた実践が公開された。ただ、全道大会との日程が近かったことや旅費の問題があることから、参加者が少なかった。次年度は後志大会が9月20・21日に、空知プレ大会が9月28日に行われる。

全国へき地教育研究連盟との関わりでは、本連盟が全国の加盟校の中で25%を占めている。また、本連盟選出委員が研究部長や図書編纂委員長を務めており、次期の長期5か年研究推進計画の策定や全国の実践事例集を編集し、全国の研究団体を牽引する立場として活躍している。

続いて、へき地・複式教育の現状と課題、そして要望についてお話しさせていただく。

道へき・複連では、平成25年度から毎年、組織検討委員会が中心となってアンケートをとっている。複式校の減少により、次のような課題が出ている。

1点目は、実践力向上の課題である。複式授業経験者が異動により少なくなったり、反対に未経験者が授業をしたりすることで、これまで培ってきた指導技術等が受け継がれなくなっている。また、複式授業を互いに交流しようとしても、移動に時間を要してしまい、なかなかできないの

が現状である。さらに、財政的不安と組織の衰退が懸念される。研究大会の開催を見送る地区が出てきている。財政面については、へき地教育振興法をもとに道教委や市町村教委に働き掛けをしているところであるが、なかなか理解を得られていない面もある。ついでには、各地区の校長会からのご支援をいただきたい。例えば、道小の組織と同様に各地区校長会に、へき複研指名理事をおいていただけたら幸いである。今後、これまで以上に道小と連携した取組を進めていきたいと考えている。

2点目は、複式指導及び指導体制についてである。例えば、社会科や理科については学年別指導を行うが、見学や実験等になると安全確保の上から担任以外の教員が必要となる。ほとんどの場合、この役割を教頭が担っている。また、児童数が15人以下の学校では事務職員が配置されず、教頭が担任と事務の業務を行っている。児童数が10人以下であれば、養護教諭が配置されず、その役割は女性教諭にお願いすることが多い。次年度からの外国語科、外国語活動の指導について大きな不安がある。

3点目は、生徒指導、不登校児童生徒、特別支援児童や通級児童への対応である。地域によっては日本語指導の課題もある。ついでには、小規模校の定数改善の要望をこれまで同様、道小からも関係機関に依頼いただきたい。

今後の新たな課題としては、全国的に増えてきている「義務教育学校」についてである。ここ数年の様子を見てみると、自校の学校運営や研究推進のために各地域の「へき地複式小規模校の研究団体」に加盟する傾向があり、全へき連でも加盟校調査の計算方法を変えていると聞いている。北海道ではまだ義務教育学校が少ないが、各地域に出来つつある義務教育学校の本連盟への加盟を、私たちも呼びかけるが、皆様からも是非呼び掛けていただきたい。

次年度は、道へき・複連が創立されて70年目を迎える。70年の節目として、また気持ちを新たに努力してまいらる。

結びになるが、皆様のご支援に感謝するとともに、これからも、へき地複式校で連盟に加盟していない学校には加盟の働き掛けのお願いと、ご協力、ご支援をお願い申し上げ、報告とさせていただきます。